

# 霧降高原

## 「キスゲ平」通信

Vol. 24 のトピック

2019年(令和元年)  
9月1日 発行

- ・シカによる被害
- ・シカ侵入防止柵の設置
- ・霧降高原 昔の姿
- ・目指すべきもの
- ・今年のニッコウキスゲ  
状況報告

# シカの食害とキスゲの保全

### シカによる被害

栃木県でシカの食害が問題化したのは昭和60年代に入るところです。増えすぎたシカによって日光の自然植生が大きく変わり、高山植物であるシラネアオイやニッコウキスゲなどの貴重な植物が激減し、樹齢200年を超える大木が樹皮剥ぎにより次々に枯死しました。本来、生態系は人間が積極的に管理しなくても、植物や動物が相互にバランスを保っているものです。しかしながら、シカは地球温暖化による積雪量の減少、オオカミの絶滅、狩猟者の減少など、人間の無意識の関与により、頭数を増やしました。



二ホンジカ オス

もともと捕食される側の動物なので、頭数を抑制する要因が少なくなっただけで爆発的に増加したのです。こうした事態を受け、栃木県では平成6年に「栃木県シカ保護管理計画」を策定し、シカの計画的な駆除(個体数の調整)と植生の保護を開始しました。

### シカ侵入防止柵の設置

キスゲ平のある霧降高原エリアは栃木県でも有数のシカ高密度地帯です。5キロ四方に300頭以上が生息しているというデータも出ており、スタッフが道中見かけることもしょっちゅうです。



新しいシカ柵

キスゲ平園地ではシカの捕獲や駆除は行っていませんが、上記計画が開始された平成6年に高さ2mのシカ侵入防止柵を設置し、周囲約2kmを囲うことでシカの食害から貴重な植物を保護しています。シカ柵は設置するだけでなく、継続的な管理が重要となり、巡視や補修が欠かせません。写真は、新しいシカ柵と古く老朽化により緩みが出てしまったシカ柵です。シカは助走なしに150cmも飛ぶことができる為、このような緩みは補修しなくてははいけません。その他、穴が開いている場所は補修し、潜り込むのを防止します。シカの群れの侵入を許すと、新芽やつぼみが食べられ、一夜にして貴重な植物が全滅することも考えられます。



老朽化したシカ柵

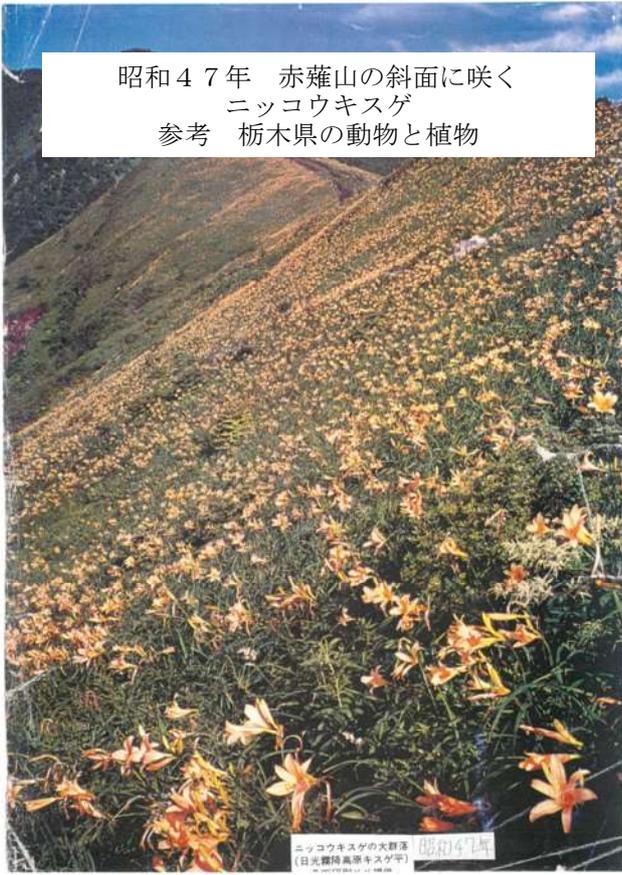
## 霧降高原 昔の姿

左の写真は昭和47年頃のもの。赤薙山の斜面にニッコウキスゲが咲いている写真です。今この場所にニッコウキスゲは一株も残っていません。すべてシカに食べられ、ササが繁茂し、まったく違う景色です。食害によりキスゲ平園地内のみとなつてしまったニッコウキスゲですが、昔は写真のように周辺の山々や草原を黄色に染め上げるほど咲いていました。少し離れた平地から山を見上げて、黄色が分かるほどだったと言われています。ニッコウキスゲの名前の由来は日光霧降に多く見られたことからです。この写真はその理由がよくわかる貴重な写真です。

## 目指すべきもの

日光の象徴でもあるニッコウキスゲ。この花の咲く貴重な環境を守るため、管理者として様々な取り組みを行っています。春と秋の年二回、キスゲの苗を植える補植活動もその一つです。お客様からの寄付金を元に苗を購入し、毎年1500株ずつ植えています。その他にも、秋には園内全体の下草の刈り払いを行い、キスゲの生育しやすい環境を整備します。シカ柵を設置して25年が経過し、一時激減したニッコウキスゲも園内に限っては回復傾向にあります。しかしながら、昔のよう高密度で咲く環境には程遠く、継続的な管理を行っていきませんが、回復にはまだまだ時間がかかることが予想されています。

ここまで、ニッコウキスゲのみに触れてきましたが、キスゲ平園地は年間を通して100種類以上の花が咲き、関東平野を一望できる抜群のロケーションを持っています。四季を通じて様々な表情が見られる醍醐味は、管理者の特権です。このような体験を多くの方に味わってもらおうべく、より一層キスゲ平園地の魅力を発信していきたい、リピーターのお客様が増えればと思います。



## 今年のニッコウキスゲ！

## 状況報告

咲き始め

6月19日

見頃

7月5日～7月17日

今年は雪不足（水不足）、日照不足、低温と悪条件ばかりが目立ち、きちんと咲いてくれるのか心配していましたが、例年通りの咲き具合となりました。ただし、期間中は晴れの日がなく、晴天の中でキスゲを見渡すことは出来ませんでした。また、来年に期待です。



7月9日 700段より上の斜面

## 【発行】